

第152話 湯殿山参拝碑

中山町歴史散策

町内に現存する湯殿山碑は、広義には「出羽三山供養碑」に含まれるのですが、この町には月山、羽黒山の碑は少ないので、湯殿山参拝碑について項を起すことにします。町内の参拝碑はおおよそ30基を数えます。全町域に分布しており、参拝者、講中から建立費用を拠出した者の名を刻んだもの、講中人数と町名を刻んだものなどさまざまの種類があります。碑名で分類すれば次のようになります。

「湯殿山」

「湯殿山供養」

「湯殿山三十三度供養」

「湯殿山代参供養塔」

自然石に「湯殿山」を刻んだものは、建立の費用も安く済んだのでしようが、なかなか素晴らしい書体のものがあります。石工の少ない町であるため、おそらくは、町外の石工や参詣者が建立したのも含まれると思われませんが、嘉永2年（1849年）西小路地藏前の碑は、小関松兵衛、五十嵐小太郎、高橋長三郎ら十数名の姓名が刻まれた珍しい碑となっています。竿石も土台石も堂々たるもので、字体も実に力強い筆さばきが見事です。

また、この碑には、山形の石工黒田政次良の名が刻まれ、

姓名が連なっているのも珍しいものです。

三十三度供養塔は、33回の参詣を済ませ無病息災や家業繁昌の御利益を讃えたものだと考えられますが、年に一度参詣しても、33年の年月を重ねたことになるといってもいいです。また、川端公民館前の「湯殿山代参供養塔」は、個々人の三山詣でがかなわなかった人達のものであるうと思われ

ます。代参は、講中が何がしかの銭を掛金として持ち寄り、3、4名の組分けとし、この掛金を参詣納金および路銀に充て、講中の代理、代表として参詣するものです。川端の代参講の組織、掛金、講中の人数は不明で、建立年代も碑からは読めませんが、古くからここに建てられたものか、道路改修などの理由でここに集められていたものかも知れず、詳しいことは不明ながら、三山詣でを知る上で貴重な参拝碑と言えるものです。

【用語の説明】
路銀…旅行に必要な金銭のこと。旅費。

※引用 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.19

こんにちは。寒さの到来とともに、柏倉家には毎日「カメムシ」が来館しています。今年は特に団体数が増えていまして、予測不可能な出現方法と刺激的な匂いに、日々心が無駄にドキドキしています。そういえば、カメムシの発生量が多い年は大雪になると聞きましたが、はたして今年はどうなるのでしょうか。

さて、柏倉九左衛門家・惣右衛門家では、今年度に入ってから岡地区のお母さま方に風通しとお掃除の協力をお願いしています。昔ながらのホウキやハタキ・雑巾を使うため結構大変な作業なのですが、そこは家事のプロ。テキパキと動いてあっという間に綺麗になっていきます。

また、掃除の仕上げには米糠を入れた手ぬぐい袋（お手製）で床板に磨きをかけてもらっています。そのおかげでツヤッと黒光りするようになり、思わずうっとり…。お母さん達の仕事にも、うっとり…。

最近は秋晴れの日窓を開けると、とても心地の良い風が家の中をめぐるっています。

協力隊だけの力ではここまでできなかったの、皆さんには本当に感謝してもしきれません。これからも協力隊の大雑把さ（さじき）とカメムシの来訪に懲りずに……ご協力いただければ幸いです。



光が反射するほどつやつや



お手製の米糠袋で磨いていただきました

●協力隊への問い合わせ先●

メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階旧パソコン室